

マルコの福音書 14 章 1-11 節 いけにえの準備

マルコの福音書の今日の聖書箇所は、引き続き、イエスの十字架の日に近づいていきます。マルコの福音書 14 章 1～11 節では、イエスの十字架刑に関わるすべての人々が、これから起ころうとしていることへの準備をしている様子を見ていきます。その人々は、イエスの死によってなされることについて、それぞれ非常に異なる動機と認識を持っていました。マルコの福音書においてこれから起こる出来事を理解するためには、この時期のユダヤ人の行事や祭りについて少し知る必要があります。14 章は、1 節「**過越の祭り、すなわち種なしパンの祭りが二日後に迫っていた。**」で始まります。ここで、これらの祭りが何であったか、そしてイエスの地上での生涯最後の期間に何が起こっていたかを理解することが重要です。祭りの 2 日前だ、という時点がマルコがはっきりと書いているので、イエスの死に至る数日間の時系列を示したいと思います。この時系列に関しては、議論にもなっていることをご承知ください。イエスが十字架につけられたのは、水曜日だった、木曜日だったという説もあり、もちろん伝統的には金曜日だったとされています。画面に示した時系列は、伝統的な金曜日説に沿っていますが、木曜日だった可能性もかなり大きいと思います。しかし、十字架刑の日について本当に重要なのは、はそれが正確にいつだったかではなく、それが起こったという事実です。より重要なのは、十字架の日と同じ週に行われる祭りについて、マルコが記していることです。画面に示した時系列は、新約聖書学者のアンドレアス・コステンバーガー博士によるもので、彼は、イエスが十字架につけられた年は、伝統的な見方である紀元後 33 年で、日付は 4 月 3 日であったと主張しています。なぜその日付を特定できるかということ、過越の祭りの日が行われるのはユダヤ暦のニサン月の 15 日だったということがわかっているからです。その年については議論されており、これによって曜日が変わってきます。紀元後 33 年に基づくと、コステンバーガー氏によれば、来週の説教で見るいわゆる最後の晩餐の日は 4 月 2 日（ニサン月 14 日）、木曜日です。そして十字架の日が金曜日、復活が日曜となり、これは意見が一致しているところです。ですから、この時系列では、過越の祭りの 2 日前というのは、イエスの死の週の水曜日ということになります。また、ユダヤの人々は夕方から夕方までを 1 日と数えることも、曜日に影響します。しかし、ここで重要なのは、曜日ではなく、過越の祭りの日の存在です。

では、この過越とは何でしょうか。今年、出エジプト記の説教で詳しく見ますが、ここでは、過越の歴史を出エジプト記 12 章から見ておきます。過越に関して、この章からいくつかの部分を読みましょう。3 節に、次のように書かれています。³ **イスラエルの全会衆に次のように告げよ。この月の十日に、それぞれが一族ごとに羊を、すなわち家ごとに羊を用意しなさい。次に、6～7 節です。⁶ あなたがたは、この月の十四日まで、それをよく見守る。そしてイスラエルの会衆の集会全体は夕暮れにそれを屠り、⁷ その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と鴨居に塗らなければならない。**

そして 11～14 節です。¹¹ **あなたがたは、次のようにしてそれを食べなければならない。腰の帯を固く締め、足に履き物をはき、手に杖を持って、急いで食べる。これは主への過越のいけにえである。¹² その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下す。わたしは主である。¹³ その血は、あなたがたがいる家の上で、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわいは、あなたがたには起こらない。¹⁴ この日は、あなたがたにとって記念となる。あなたがたはその日を主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠の掟として、これを祝わなければならない。これは、エジプトに対する最後のさばきとわざわいでした。門柱に過越のいけにえの羊の血を塗らない限り、すべての生き物の長子が殺されました。今日の聖書箇所を読んでいくにあたって、これを頭にいれておいてください。**

次に、種なしパンの祭りがあります。これは通常、過越の祭りとはくっついていますが、2 つの別々の、しかし関連する行事です。7 日間の種なしパンの祭りは、過越の祭りの後に行われま

す。出エジプト記 12 章の続きを 15 節から読むと、この祭りの起源が説明されています。出エジプト記 12 章 15 節に、次のように書かれています。¹⁵ **七日間、種なしパンを食べなければならない。その最初の日に、あなたがたの家からパン種を取り除かなければならない。最初の日から七日目までの間に、種入りのパンを食べる者は、みなイスラエルから断ち切られるからである。そして 20 節です。²⁰ **あなたがたは、パン種の入ったものは、いっさい食べてはならない。どこでも、あなたがたが住む所では、種なしパンを食べなければならない。**この祭りの主題は、純潔です。聖書では、パンを膨らませるパン種は、常に汚れ、罪とみなされています。ですから、この祭りは、人々の生活からすべての罪と汚れを、象徴的に取り除く行事でした。今日でも、この行事を守っているユダヤ人は、その期間中、家の中から確実にすべての汚れを取り除くために、容器からこぼれたり、子どもが落としたりした酵母や膨張剤を含む食品（シリアルなど）がないよう、ソファのクッションの間や食器棚の隅々まで探します。今一度、この祭りと、私たちの生活から罪を取り除くという意味を覚えておいてください。**

では、これら 2 つの行事を頭においておき、最初の人々、**イエスの敵が、十字架の日の準備として何をするのか**を見ていきましょう。マルコの福音書 14:1~2 節を読みましょう。**過越の祭り、すなわち種なしパンの祭りが二日後に迫っていた。祭司長たちと律法学者たちは、イエスをだまして捕らえ、殺すための良い方法を探していた。² 彼らは、「祭りの間はやめておこう。民が騒ぎを起こすといけない」と話していた。**この聖書箇所に出てくる最初の人々は、イエスの敵です。彼らは十字架刑の計画を実行する方法を探していました。これが、彼らが行っていた準備でした。そしてそれを、民衆に対する自分たちの指導力を損なわないようなやり方で進めたいと思っています。彼らにとっての問題は、イエスの周りには常に多くの人々がいることです。彼らはすでに宮で丸一日を費やし、イエスのことばじりをとらえて、逮捕する口実を作ろうとしていたのを思い出してください。しかしいまや理由をつけることは諦めたようで、ただ、多くの人々が騒ぎを起こさないような機会をうかがっています。そして、イエスを逮捕するための彼らの準備は、今日の聖書箇所では私たちが注目する人々のうち、3 番目が登場したときに完了します。

私たちはまず 2 番目に、**イエスに従う者たちが、イエスの十字架の日の準備として何をするのか**を見ましょう。マルコの福音書 14 章 3~9 節を読みましょう。³ **さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンのお家におられたときのことである。食事をしておられると、ある女の人が、純粋で非常に高価なナルド油の入った小さな壺を持って来て、その壺を割り、イエスの頭に注いだ。⁴ すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなに無駄にしたのか。⁵ この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧しい人たちに施しのできたのに。」そして、彼女を厳しく責めた。⁶ すると、イエスは言われた。「彼女を、そのままにさせておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。⁷ 貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいます。あなたがたは望むとき、いつでも彼らに良いことをしてあげられます。しかし、わたしは、いつもあなたがたと一緒にいるわけではありません。⁸ 彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。⁹ まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」**イエスは今、エルサレムから出て、ベタニアの町に戻っています。ヨハネの福音書によると、この出来事は、イエスが死からよみがえらせたラザロ、そしてマリア、マルタの家で起こりました。ヨハネの福音書 12 章 1 節と 3 節に、次のように書かれています。1 節、**さて、イエスは過越の祭りの六日前にベタニアに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。**そして 3 節です。³ **一方マリアは、純粋で非常に高価なナルドの香油を一トラ取って、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。**では、なぜマルコはこのような詳細を説明していないのでしょうか？なぜなら、マルコは、名前が明らかにされない女性の行動を、イエスを裏切る、イスカリオテのユダという名の知られた内部の弟子と対比させるからです。ツアラアトに冒された人シモンは、マリア、マルタ、

ラザロの父親であり、ツアラアトが治ったのだと思われます。そうでなければ、人々の集まりを主催することはできなかったでしょう。この出来事は、次に起こる裏切りの深さを際立たせているのです。

マルコは、この名前の明かされない女性を意図的に登場させ、イエスに従う者が、どのように来るべき十字架刑に向けた準備をしたかを示しています。なぜ女性なのでしょう？通常、女性はこの種の集まりには参加しませんでした。このような社交的集まりには、通常は女性が歓迎せんでしたが、イエスは通常とは違います。イエスの公的な働きにおいて、社会的、宗教的な規範によりイエスの行動や態度が縛られることはありませんでした。イエスは神に忠実であり、旧約聖書に記されている神の律法にさえ忠実ですが、人間の偏見や性差別的な態度には従っていません。ですからイエスは、この女性がご自分にしたことを歓迎し、適切であるというだけでなく、6節で「**良いこと**」であると称えています。では、この行動の何が良かったのでしょうか。第一に、イエスの頭に油に注ぐのに使われた油です。マルコは3節で、それは**純粋で非常に高価なナルド油の入った小さな壺**だったと記述しています。ここでこの香油について述べるために使われているのは、かなり誇張した表現です。ナルドは、今はスパイクナード（甘松）と呼ばれる精油で、当時はインドからしか手に入りませんでした。この油を作るのは難しく、入手可能な量もともともと限られていることと、しかもインドからイスラエルの地域まで運ばなければならないことから、極めて高価なものだったのです。用途の一つとして、埋葬の準備として遺体の臭いを隠すために用いられました。また家宝として保管され、高価な投資として相続されることもありました。

実際、この聖書箇所には、見ていた人がこれは300デナリ相当だと指摘したことが書いてあります。以前の説教で述べたことがあります。1デナリは当時の日当であり、この香油の価値は平均的な人のほぼ1年分の給料に相当したということです。

では、この女性はなぜこのような行動をとったのでしょうか？彼女の視点からすると、これはおそらく純粋に、自分が主であり、メシアとして認識していたイエスを敬い、あがめる行為だったのでしょう。12章で、全財産である2枚の銅貨をささげたやもめのように、この女性も自分の最も大切な持ち物をすべてささげ、救い主を礼拝したのです。香油の壺を壊したという、細部の描写が加えられていることにも注目してください。彼女は香油の入れ物すらも再利用できないようにし、取り戻すことのできないかたちで、すべてをイエスにささげたのです。これも、弟子としてあるべき姿を示しています。しかし彼女には見えていなかったことがありました。忠実な弟子の模範としての彼女の行為は、さらに大きな意味を持っていたのです。彼女のしたことは、イエスの死を指し示していました。8節でイエスは、「**埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。**」と言っています。イエスの敵が十字架刑を企んでいる一方で、イエスに従う者たちは、間もなく起こる死を指し示す、美しい礼拝の行為を経験していたのです。イエスは9節で、「**世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。**」と言っています。つまり、この女性の行為は、福音が宣べ伝えられるところではどこでも、弟子の模範として語り継がれるということです。これが福音のメッセージとどのように結びつくのでしょうか？福音は、聖書全体の中心をなす物語です。創造：私たちは、創造主である神によって造られた被造物です。堕落：最初の人アダムに始まり、私たちはみな、思考においても行動においても、聖なる神に対して罪を犯してきました。贖い：神は旧約聖書で預言され、新約聖書でイエス・キリストとして啓示されている贖い主、救い主を備えられました。回復：やがて、贖いは完成し、すべてのものが新しくされ、現在続いている、贖いを通じた更新の働きは完成されます。イエスの血によって贖われた私たちを含むすべての人が完全に聖なる者とされ、現在私たちや周りの世に影響を与えている罪、この罪のない存在となるのです。この女性は、この物語を読むすべての人に、イエスの真の弟子の、イエスに対する感謝がいかに深く、その結果として弟子がいかにイエスを礼拝するのかをしています。

彼女は、その時点では、48時間も経たないうちに十字架の上で彼が自分のために何をしてくださるのかを完全には理解していなかったとしても、救い主から、自分がどれほどの恩を受けているかを知っていたのです。

彼女や他の弟子たちが知らなかったのは、彼女の行動を批判していた少なくとも一人が、何を考えていたかです。ヨハネによる福音書 12 章 4 節には、**弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが**、この女性からイエスへのささげ物を批判したと記されています。これは重要な点です。なぜなら、キリストに真につき従う者による、弟子としての正当な行為を批判したこの自称イエスの弟子は、自分自身がイエスの裏切り者となるための準備をしていたからです。10-11 節で、**イエスを裏切る者が準備をする様子**を読みましょう。¹⁰ **さて、十二人の一人であるイスカリオテのユダは、祭司長たちのところへ行った。イエスを引き渡すためであった。**¹¹ **彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすればイエスをうまく引き渡せるかと、その機をうかがっていた。**今日の聖書箇所の冒頭では、宗教的指導者たちが、「**民が騒ぎを起こすといけない**」ので、群衆のいない時にイエスを逮捕する方法を探していたことを思い出してください。ユダがイエスを裏切れば、彼らのねらいを実現させる完璧な手段となります。

ユダはイエスが一人でいる時に、この人たちをイエスのもとへ導くことができたからです。

マルコの福音書では、これは突然起こったことのように見えますが、ほかの福音書でユダは、イエスと弟子たちに与えられたお金から盗みを働く貪欲な人物として書かれています。今回は詳しく見る時間がありませんが、ユダもともと、イエスに真につき従う者ではなかったことは明らかです。これは私たち全てへの警告として受けとめるべきです。クリスチャンのグループに紛れ込み、周りの人々を欺くことはできても、本当の意味でイエスに従っていないということがあり得るのです。YIBC に来て、教会員になって、メンバーになって関与しているかもしれませんが、さらには日曜学校の教師を務めたり、何らかのリーダーの役目を務めているかもしれませんが、それは、あなたが心から、イエスに従っている者であるという保証にはならないのです。ユダは福音を聞いていました。イエスが罪人を贖うために来られたという真理を聞いていましたが、ユダ自身は、贖い主また救い主としてのイエスを拒絶していたのです。ここに、今日の初めに見た、この出来事と同じ時に行われていた行事とのつながりがあります。イエスの敵、弟子たち、そして裏切り者による、これらすべての準備は、私たちの救いのための神の永遠の計画の一部だったのです。過越の祭りのためにいけにえの羊が選ばれていたその同じ日に、それらすべての羊が指し示していた、神の完璧な羊が、いけにえとして死ぬ準備をしていました。その死は、救いを求めて主に立ち返るすべての者の罪と咎を取り除くことを可能にしました。種なしパンの祭りの期間中に一時的に家の清めることとは異なり、そして門柱ではなく、私たち一人ひとりのいのちに注がれたイエスの血を通して、私たちは、永遠に聖なるものとされ、聖別されるのです。これこそがわたしたちの感謝の理由であり、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストへの礼拝において、すべてを犠牲としてささげる理由なのです。お祈りしましょう。

Mark 14:1-11 Preparation for a sacrifice

Today's passage in Mark continues to move us closer to Jesus's crucifixion. What we will see in Mark 14:1-11 is all the players involved in the crucifixion of Jesus making their final preparations for what is coming. And each of them have very different motives and understandings about what is coming with Jesus's death. To understand what is happening from here on out in the events of Mark, it will require some understanding of some Jewish events and festivals that these events take place around. Chapter 14 begins by telling us in verse 1, **14 It was now two days before the Passover and the Feast of Unleavened Bread.** This is important to understand what these feasts were and what was happening in these final days of Jesus's life. Because Mark has been very clear on what time period he is talking about, two days before these feasts, I want to show a timeline of what happens these last few days before Jesus's death. Just know that these days are debated. The case has been made for Wednesday, Thursday and of course the traditional day of Friday for the crucifixion. This timeline on the screen shows the traditional view, but I also think Thursday is a very strong possibility. The really important fact of the crucifixion is not the exact day it took place, but that it did. More important is what Mark points out here about the Feasts happening during this same week. The timeline on the screen is from New Testament Scholar, Dr. Andreas Kostenberger who defends the traditional year of 33AD as the year for the Crucifixion and makes the case for April 3, 33AD. The reason he can be so specific is because we know that the Passover takes place on the 15th day of the Hebrew month of Nissan. The year, though, is debated and that would change the day of the week. But based on 33AD, he says that the day of the Last Supper that we will look at next week is Thursday, April 2 (Nissan 14). Then, the crucifixion takes place on Friday and the Resurrection on Sunday, which everyone agrees on. So, in this timeline, when we are told it was two days before the Passover, we are talking about Wednesday of the week of Jesus's death. The other issue that affects the day is that the Jews count the day as starting in the evening and going to the next evening. But the key here is not the day of the week, but the feast taking place.

So what is the passover? We will take a longer look at this when I preach through Exodus later this year, but for now, we can see the history of the Passover in Exodus 12. Let's read through some selected verses from this chapter and see what the Passover is. Verse 3 says, **3 Tell all the congregation of Israel that on the tenth day of this month every man shall take a lamb according to their fathers' houses, a lamb for a household.** Then verses 6-7 says, **6 and you shall keep it until the fourteenth day of this month, when the whole assembly of the congregation of Israel shall kill their lambs at twilight.** 7 "Then they shall take some of the blood and put it on the two doorposts and the lintel of the houses in which they eat it. Then verses 11-14. **11 In this manner you shall eat it: with your belt fastened, your sandals on your feet, and your staff in your hand. And you shall eat it in haste. It is the Lord's Passover.** 12 For I will pass through the land of Egypt that night, and I will strike all the firstborn in the land of Egypt, both man and beast; and on all the gods of Egypt I will execute judgments: I am the Lord. 13 The blood shall be a sign for you, on the houses where you are. And when I see the blood, I will pass over you, and no plague will befall you to destroy you, when I strike the land of Egypt. 14 "This day shall be for you a memorial day, and you shall keep it as a feast to the Lord; throughout your generations, as a statute forever, you shall keep it as a feast. This was the final judgement and plague on Egypt. The firstborn of every living

thing would be killed unless there was the blood of the passover lamb spread on the doorposts. So, keep that idea in mind as we look at this passage.

Then there is feast of unleavened bread. This is normally attached to the celebration of Passover as we see here, but they are two separate but related events. The seven days of the feast of unleavened bread follows the Passover. As Exodus 12 continues in verse 15, it explains the origin of this feast. **Exodus 12:15** says, **15 Seven days you shall eat unleavened bread. On the first day you shall remove leaven out of your houses, for if anyone eats what is leavened, from the first day until the seventh day, that person shall be cut off from Israel.** Then verse 20 says, **20 You shall eat nothing leavened; in all your dwelling places you shall eat unleavened bread.** This feast is about purity. Leaven, a bread's rising agent, is always seen as impurity and sin in the Bible. So, this feast was a time of symbolically removing all the sin and impurity from the lives of the people. Today, those Jews who still keep these feast days will go through couch cushions and corners of cabinets to find the least bit of cereal or other products that contain any sort of yeast or rising agent that may have fallen out of a container or been dropped by even a young child in order to make sure that they have all the impurity out of their houses. Once again, keep in mind this feast and the meaning of cleansing from sin out of our lives.

So, with those two observances in our minds let's see what the first group, **Jesus's enemies do to prepare for the crucifixion.** Read Mark 14:1-2. **14 It was now two days before the Passover and the Feast of Unleavened Bread. And the chief priests and the scribes were seeking how to arrest him by stealth and kill him, ² for they said, "Not during the feast, lest there be an uproar from the people."** The first group of people we see in this text are Jesus's enemies. They are preparing for the crucifixion by looking for a way to carry it out. And they want to do it in a way that doesn't undermine their leadership of the people. The problem is there are a lot of people always around Jesus. Remember, they have already spent an entire day at the temple trying to trip him up into saying something that would give them a legitimate reason to arrest him. But now they seem to have given up having any reason, but are just looking for an opportunity that will not be in a way that the majority of the people will not be in an uproar. Their preparation to arrest Jesus would be complete when the third person focused on in our passage today comes into the picture.

But for now, let's see what **Jesus's followers do to prepare for Jesus's crucifixion.** Read verses 3-9 of Mark 14. **³ And while he was at Bethany in the house of Simon the leper,^[a] as he was reclining at table, a woman came with an alabaster flask of ointment of pure nard, very costly, and she broke the flask and poured it over his head.⁴ There were some who said to themselves indignantly, "Why was the ointment wasted like that? ⁵ For this ointment could have been sold for more than three hundred denarii^[b] and given to the poor." And they scolded her. ⁶ But Jesus said, "Leave her alone. Why do you trouble her? She has done a beautiful thing to me.⁷ For you always have the poor with you, and whenever you want, you can do good for them. But you will not always have me. ⁸ She has done what she could; she has anointed my body beforehand for burial. ⁹ And truly, I say to you, wherever the gospel is proclaimed in the whole world, what she has done will be told in memory of her."** Jesus is now out of Jerusalem and back in the city of Bethany. The Gospel of John tells us that this event takes place at the home of Mary and Martha and Lazarus, who Jesus had raised from

the dead. John 12:1 and 3 says, **12 Six days before the Passover, Jesus therefore came to Bethany, where Lazarus was, whom Jesus had raised from the dead. Verse 3, ³ Mary therefore took a pound of expensive ointment made from pure nard, and anointed the feet of Jesus...** So why does Mark not give us that detail? Because for him the act of an unnamed woman is going to be contrasted against a known insider, a disciple named Judas Iscariot, who will betray Jesus. Simon the Leper was Mary, Martha and Lazarus's father, who had apparently been healed of leprosy or he would not be able to host a social activity. This event really highlights the depth of betrayal that happens next.

So, Mark, brings this unnamed woman into the picture purposely to show how a follower of Jesus prepared for the coming crucifixion. Why a woman? Normally women would not have been anywhere in this event. This was a social gathering where normally women would not have been welcome, but Jesus is different. Throughout his ministry, social and religious norms have not controlled his actions and attitudes. His allegiance is to God and even to God's law as laid out in the Old testament, but not to human prejudice and sexist attitudes. So he welcomes this interruption by this woman, and commends her action as not only proper, but in verse 6, **"beautiful!"** So, what was beautiful about this action? First what made this beautiful was the item used in the anointing Jesus with oil, pouring this oil over his head. Mark describes it in verse 3 like this... **alabaster flask of ointment of pure nard, very costly.** The wording here is very over the top in describing this ointment. Nard, that we call usually call Spikenard now, was an essential oil that at that time had to come from India. So because of the difficulty of making this oil and the limited quantities that it would have been available in and the distance it had to come to be in the area of Israel made this extremely valuable. One of its uses was for preparing bodies for burial because it would mask the smell, but it could have also been kept as a family heirloom and passed on as an expensive investment. In fact, we are told that some watching pointed out that this would be worth 300 Denarii. I mentioned in an earlier sermon that a Denarii was one day's wage at the time, meaning that this would have been nearly a year's salary for the average person.

So why did this lady do what she did? From her perspective, this was probably simply an act of honor and worship towards her Lord, Jesus, who she recognized as her Christ, her Messiah. Just like the widow at the temple in chapter 12 who gave everything she had in those two small copper coins, this lady was giving that thing that was likely her most treasured possession and offering it completely in worship to her Savior. Notice that we are given the added detail that she broke the bottle that it was in. She made it so the bottle itself could not be reused, she completely offered every part of this with no way to take it back to Jesus. This is once again the picture of what a disciple is supposed to be. But what she could not have seen is that her picture of faithful discipleship was doing something even greater. It was pointing to his death... in verse 8, Jesus says, **she has anointed my body beforehand for burial.** While Jesus's enemies were plotting his crucifixion, the followers of Jesus were experiencing a beautiful act of worship pointing to the death that would happen soon after. Jesus says in verse 9, that... **wherever the gospel is proclaimed in the whole world, what she has done will be told in memory of her.** He is saying that what this lady did would be pointed to as an example of discipleship wherever the gospel is presented. How does this tie in to the message of the gospel? The gospel is essentially the overarching narrative of scripture. Creation – we are a created being by a Creator God. Fall – starting with the first man, Adam, we have all sinned against a holy God in both in thought and action. Redemption –

God provided a redeemer, a Savior, prophesied in the Old Testament, and now revealed in the new as Jesus Christ. And Restoration – One day, redemption will be complete as all things are made new, and the current process of renewal through redemption will be finished and everything including those of us redeemed through the blood of Jesus will be fully perfected and made holy, without the sin that presently affects not only us, but the world around us. This woman demonstrates for all who read this story the depth of thankfulness resulting in worship that exists in the true disciples of Jesus. She recognized how much she owed to her Savior, even if she was not fully aware at that moment what he would do for her less than 48 hours later on a cross.

What she could not have known or any of the other disciples was what was in the mind of at least one of those criticizing her actions. The gospel according to John actually tells us in [John 12:4 that is was Judas Iscariot, one of his disciples...](#) who criticized this woman's gift to Jesus. This is important, because this supposed disciple of Jesus, who criticized a legitimate act of discipleship by a true follower of Christ was preparing himself as Jesus's betrayer. Look at verses 10-11 where **Jesus's betrayer prepares.**
¹⁰ Then Judas Iscariot, who was one of the twelve, went to the chief priests in order to betray him to them. ¹¹ And when they heard it, they were glad and promised to give him money. And he sought an opportunity to betray him. Remember that this passage starts with the religious leaders seeking a way to arrest Jesus without the presence of crowds that would get upset and could cause an **"uproar from the people."** Judas betraying Jesus is their perfect way to make that happen. He would be the one who could lead them to Jesus at a time when he was alone. In the book of Mark, this event seems like it was out of the blue and sudden, but the other gospels paint a picture of Judas as a greedy man who actually is stealing from the money given to Jesus and his disciples. We don't have time to go into it, but it's clear that Judas has never been a true follower of Jesus. This should be a warning to all of us. You can blend into a group of Christians, of Christ followers, and fool everyone around you, but not really follow Jesus. That means you can attend YIBC, you can even be a member and participate. I would go so far as to say you may even be able to teach a Sunday School class or serve in leadership in some way, and that is no guarantee of your heart as a follower of Jesus. Judas had heard the gospel. He had heard the truth that Jesus came to redeem sinners, but he himself had rejected him as his redeemer and Savior. But that actually brings us back to where we started and the celebrations that were taking place during this same time. All of this preparation taking place by Jesus's enemies, his disciples, and his betrayer is all part of God's eternal plan for our salvation. And on the same day that lambs are being picked out to sacrifice for Passover, the perfect lamb of God, who every one of those lambs pointed to was preparing for his own sacrificial death. A death that makes possible the removal of sin and guilt for all who would turn to him for salvation. Unlike the temporary cleansing of a house during the Feast of Unleavened Bread, we are made holy, sanctified for eternity through the blood of Jesus applied not to a door, but to each of our lives. This is cause for thanksgiving, a reason to sacrifice everything in worship to our Savior and Lord, Jesus Christ. Let's pray.